

伝承鳩

文字でつなぐ人の心

No.6

「かあさんの詩」

「母上様 先立つ私をお許しください」

こんな出だしの手紙がガラスケースの中に陳列されている。広島県江田島にある海上自衛隊第一術科学校の中の教育参考館の一室だ。

太平洋戦争の末期 若い兵士(特攻隊)が母に宛てた最後の言葉だ。黄色く変色してきた便箋に書かれた手紙文は とても声に出しては読めない。書かれた文字を目で追うだけで 涙で文字がぼやけてくる。母を思い綴られた内容は様々だが 便箋の中の文字一文字の思いはとてつもなく重い。この地球上に生を受け僅か十数年の彼らが残した「生きた証」の言葉だ。

母の元で十七〜八年程しか育てられていない。何のために生まれてきたのか彼らは 自問自答をしている間はなかっただろう。

そして「先立つ私をお許しください」と綴られた手紙を受けとった母は どのように自分を自制したのだろうか？

母親にとって十数年は何だったのだろうか。母は わが子が何の為に生まれてきたのだ

ろう？戦争の道具として育てたわけではないと自問し自責していたに違いない。とても残酷なことが行われた。

残酷な戦争が終結し少しずつ平和が人々の心の中に生まれる頃「かあさんの歌」が生まれた。貧しいけれど暖かい家族の生活がしみりと伝わってくる。

夜なべをして手袋を編んでくれる母手にできた「あかぎれ」に味噌を擦り込んで傷を治そうとしている母の後ろ姿！

このことは 現代の子どもたちには理解できないことだろう。

母を思う心 他人を思いやる心は いつから薄くなつてしまったのだろうか？

私の母は ときどき箒で私を叩いた。「そんな風に育てたつもりはない」と言いながら！(わるがきだったようだが?)

しかし 私は この歌を聴くとどうしても涙が出てきてしまう。なぜだろう…？

あれから七十年が過ぎようとしている。もう一度この「かあさんの歌」が沢山の子供たちに唄われる日が来てくれることを祈りたい。

蟻川 孝

- ◆このコーナーでは町民の皆さんの「作文」「手紙」「作品」などをご紹介します。
- ◆自分の想いを形に残したい、あの人のあの想いや言葉を形に残したい、という方がいらっしゃいましたら、ぜひ左記までご連絡ください。(先着順)
- ◆お寄せいただいた内容が、広報紙への掲載には不適切である場合や指定分量(文字数500字程度)を超える場合、掲載をお断りするか、編集のご相談をさせていただくことがあります。また、内容によっては「みんなの広場」の投稿欄などに掲載する場合があります。何卒ご容赦願います。

人口と世帯

6月1日現在、()は対前月比

人口	14,415人	(+ 1)
男	7,103人	(+ 7)
女	7,312人	(- 6)
世帯	5,890世帯	(+ 2)
5月の出生数	3人	

7月の納税・納付

固定資産税	(第2期)
国民健康保険税	(第1期)
後期高齢者医療保険料	(第1期)
介護保険料	(第1期)

- 納期限を過ぎないように、コンビニ納付や口座振替をご利用ください。

広報写真で振り返る町の歴史 ⑰

平成16年4月17日
「旬の花」オープン
農産物を活用した特産品の開発・加工・販売を行う施設がオープンする様子を、スタッフである「味の会」の皆さんの声とともに伝えています。
【平成16年4月(No.381)号より】



鳩豆うどん定食

編・集・室

今月号で取り上げた「地域健康教室」にお邪魔した際に、皆さんといっしょにストレッチ運動をやりました。元々体が硬いことに加え、普段体を動かしていないことから、体が悲鳴を上げていました。

取材に出る以外は、職場でも、車通勤中でも、家でも、座ってばかりいる生活が続いています。今の日常生活に、運動の習慣を割り込ませることの難しさを感じながらも、何かやらねばと危機感を抱きま

た。